

取扱いの趣旨

歯の破折のみでは、歯を固定する必要性は乏しいことから、「歯の破折（F r T）」で「I 0 1 4 暫間固定 2 困難なもの」の算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《令和3年9月27日》

198 暫間固定④

○ 取扱い

原則として、「歯の破折（F r T）」病名で、「I 0 1 4 暫間固定 2 困難なもの」の算定を認めない。

○ 取扱いを定めた理由

歯の破折のみでは、歯を固定する必要性は乏しいと考えられる。

グラフの見方

- 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）
暫間固定（困難なもの）を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（歯の破折（F r T）に対して暫間固定（困難なもの）を算定）に該当するレセプト件数
- 折れ線グラフ
該当レセプトのうち、暫間固定（困難なもの）が
査定・返戻となった割合

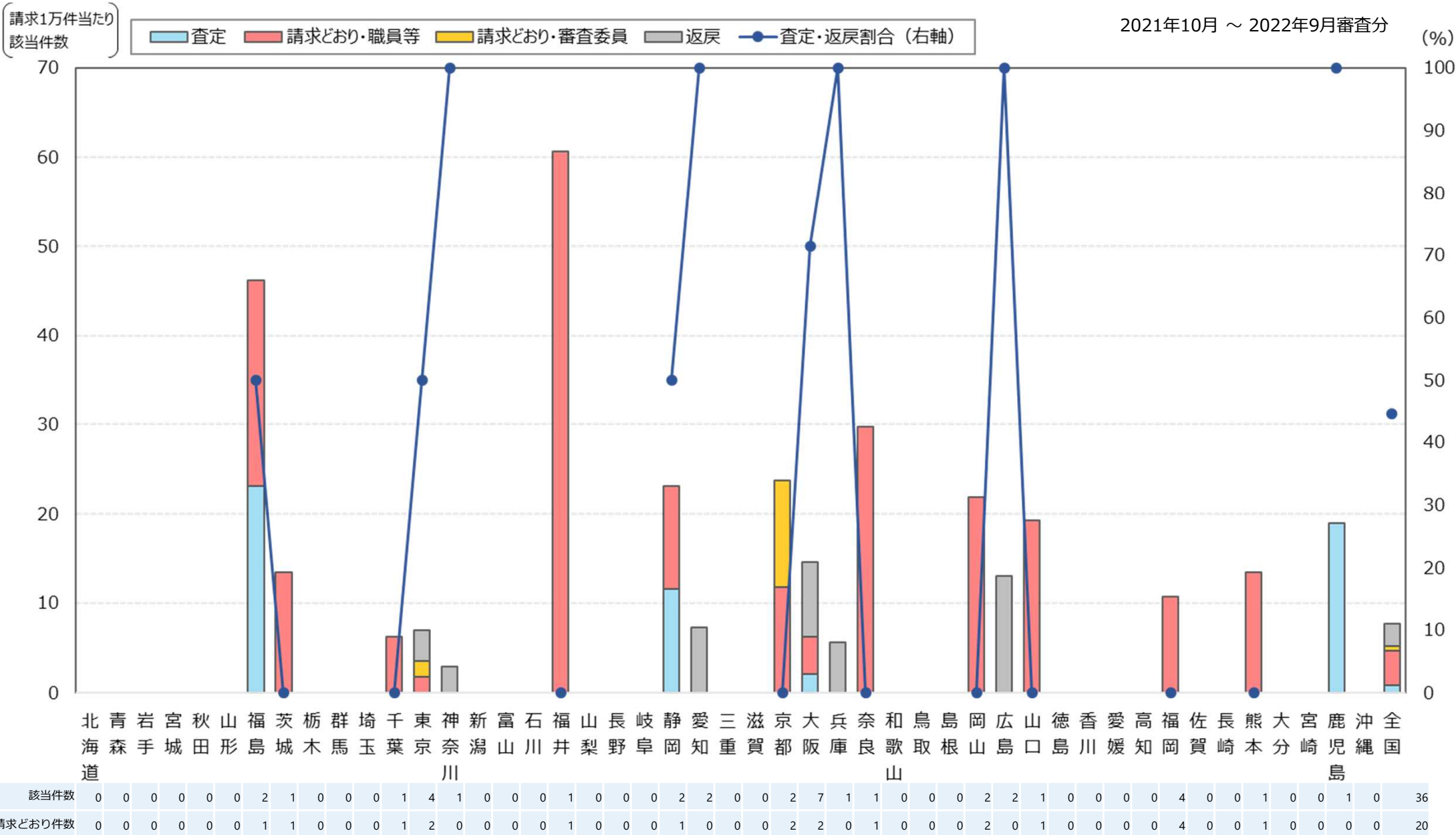
【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 44.44%
- 検証を必要とする都道府県 5

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県	京都、岡山、福岡、東京、大阪	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等	岡山、京都、福岡、大阪、東京	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	京都、東京	//
該当件数（全国）	歯の破折（F r T）に対して暫間固定（困難なもの）を算定	36件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	16件
検証を必要とする審査	請求どおり	20件



【該当件数】 歯の破折（FrT）に対して暫間固定（困難なもの）を算定しているレセプト件数